

Future

あっという間にクォーター間休みが終わり、第2クォーターがスタートしました。新たにクラスメイトが加わり、25名の4年生となりました。第2クォーターは間に2週間の休みをはさむ形で、それぞれ1ヶ月の学校生活があります。暑い毎日が続きますが、引き続き子どもたちやSOLANの教育活動へのご支援・ご協力お願いいたします。

プロジェクト ~東京大学赤津研究林見学~

7/11（月）の午前中に、瀬戸市内にある東京大学の所有林である赤津研究林に見学に行きました。社会の瀬戸市の副教材に掲載されていたことから、4月末にこちらから連絡を取り始め、瀬戸市内の学校では10年以上研究林での校外学習がない中、6月末の最終の下見と打ち合わせを経て今回の校外学習が実現できました。当日は東京大学の研究員さんなど、5名の方が子どもたちのために様々な説明をしてくださいました。

森に入っただけの活動では、森が水にとってどんな役割であるか、川がどうなって生まれるか、また実際に地面からしみ出る水の様子を見せながら説明してくださいました。また上流の川にも実際に入ることができ、都会の下流とは違った川の透き通るほど綺麗で冷たい様子を体験しました。毎日暑い日々を過ごしている子どもたちにとっては大喜びの体験でした。

研究に関する説明の活動では、降雨量を計測したり、大気降下物を採取したりといった様々な機械を紹介して下さったり、大きな量水観測堰堤を見学しました。また森と水の研究だけでなく、森林内に巣箱60個を入れての鳥の研究もされており、実際に春に鳥が子育てを行った後の巣箱や、途中で繁殖に失敗した巣箱なども紹介してくださいました。

東京帝国大学時代の1922年に設置されてからちょうど100年となる今年に、こういった活動を行えたことは本当に貴重な経験で、冒頭述べた通り10年以上小学生の受け入れをして来なかった東京大学の皆さんにかなりの準備をしていただき今回の活動が実現できました。研究所の会議を通してくださり、また2日後からはアメリカから2ヶ月間の研究のために研究者の方がいらっしゃる忙しい中、子どもたちが安全にまた楽しく、そして充実した活動を準備くださいました。これを機に学校として是非とも繋がりを持ち続けたいと思います。

第1クォーターに行った瀬戸市蛇ヶ洞浄水場と西部浄化センターに続き、今回の赤津研究林もSOLANからバスで15分ほどの距離にあり、今回のプロジェクトを通して改めて恵まれた環境であることを実感しています。今後も地域内の様々な場所を訪れながら、子どもたちには瀬戸市を更に好きになってもらいたいと思います。

学級活動 ~第2クォーターを楽しく過ごすために~

第2クォーターを始める際、今回は今までのクォーターの始め方と違い、子どもたちそれぞれに先日の学級活動で「第2クォーターを楽しく過ごすためのアイデア」を考えてもらいました。子どもたちからは、「学年でのドッジボール」や「クラスみんなで読書」「プロジェクトのテーマ決め」といった活動を書いている子がいる一方で、「お互いの思いやり」「争わない」「意見を否定しない」など、人間関係のことをも含め、様々なアイデアが出ました。その理由として、ストレス発散したい、クラスの中を深めたいといった思いがたくさん表れていました。今後子どもたちが学校生活を楽しく、また4年生の学年として更に仲良く、また信頼し合える学年になるため、子どもたちからのアイデアを実現していきたいと考えています。